

個別説明板 3



弥生の田んぼ



弥生時代中頃以降、青谷の人々は湿地の一部を開拓して水田をつくり始めました。当時の田んぼは一枚の面積が小さいのが一般的で、「小区画水田」と呼ばれています。小さな区画の方が田んぼ一枚ごとの勾配を取りやすく、すべての田んぼに水を行き渡らせるのに都合が良かったからだと考えられています。

この田んぼも当時の小区画水田を再現したものです。弥生時代のお米作りを体験するための田んぼとして活用しています。




湿地につくられた水田（弥生時代後期の景観を復元したCG）

青谷上寺地遺跡で発掘された弥生時代中期の水田の畦





発掘された小区画水田（鳥取県米子市目久美遺跡）

黒米や緑米といった玄米に色がついた、一般的に「古代米」と呼ばれるお米を育てています。品種改良が進んだ現代の白米に比べ原始的な特徴をもっています。

- ・イラスト（カット）1点描き起こし。

個別説明板 4



高床倉庫



高床倉庫は稲などを保管する倉庫で、湿気を防ぐため床を高く上げているのが特徴です。青谷上寺地遺跡から出土した建物の部材を参考にして復元しました。建物の木材にはスギ、屋根葺材にはススキ（カヤ）を使っています。

となりの体験水田で収穫した稲や、稲作に使う道具を保管する倉庫として実際に使っています。弥生時代当時にこの場所に建っていたものではありません。




千木

棟木

妻壁板

屋根下地

妻壁板

柱

床板

扉板 (183・184)

扉板

柱

根太

梯子

ネズミ返しまたは台輪

柱

根太

梯子

- ・イラスト（カット）1点描き起こし。
- ・建物イラスト部分改変及びリトレース。